



# 中長期的な成長により 企業価値を増大させる

THK株式会社  
代表取締役社長CEO

寺町 彰博

## 2017年3月期を振り返って

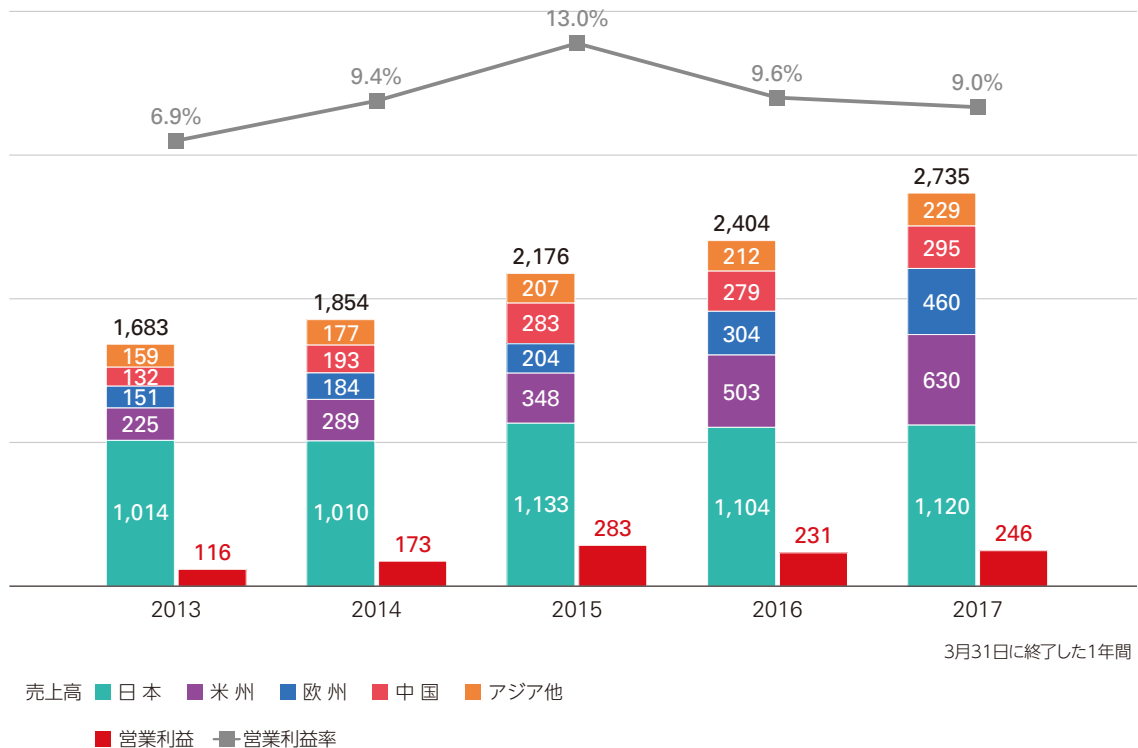
2017年3月期は、中国をはじめとする新興国において経済成長が鈍化する一方、欧米を中心とする先進国経済は回復基調となり、世界経済は緩やかな回復が続きました。日本では、円高を背景に輸出に弱い動きが見られたものの、期の後半にかけて全体的に持ち直し、経済は緩やかに回復しました。そのような中、当社グループでは、これまで強化してきた事業体制を活かしてグローバル規模で積極的な拡販に努めました。また、輸送機器事業のさらなる拡大を目的として、2015年8月31日よりTHK RHYTHM AUTOMOTIVE (TRA) 4社を連結対象としており、2016年3月期が4ヵ月分の業績が連結されたのに対し、2017年3月期は12ヵ月分の連結となりました。これらの結果、連結売上高は前期比13.8%増の2,735億円となりました。利益面では為替が前期に比べて

円高で推移する中でも、売上高を増加させたことなどにより、営業利益は前期比6.4%増の246億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比23.2%増の167億円となり、2017年2月に上方修正した計画を上回ることができました。

2017年12月期については、決算期を12月期に変更する上での経過期間となり、3月期決算法人は4月～12月の9ヵ月間、12月期決算法人は1月～12月の12ヵ月間の変則決算となります。この前提に加え、好調に推移する受注状況を踏まえて、連結売上高は2,735億円、営業利益は280億円を計画しています。なお、参考値として従来と同様の3月期決算ベースでは、連結売上高は前期比11.5%増の3,050億円、営業利益は前期比39.9%増の345億円といずれも過去最高の水準を見込んでいます。

### 経営状況

(億円)



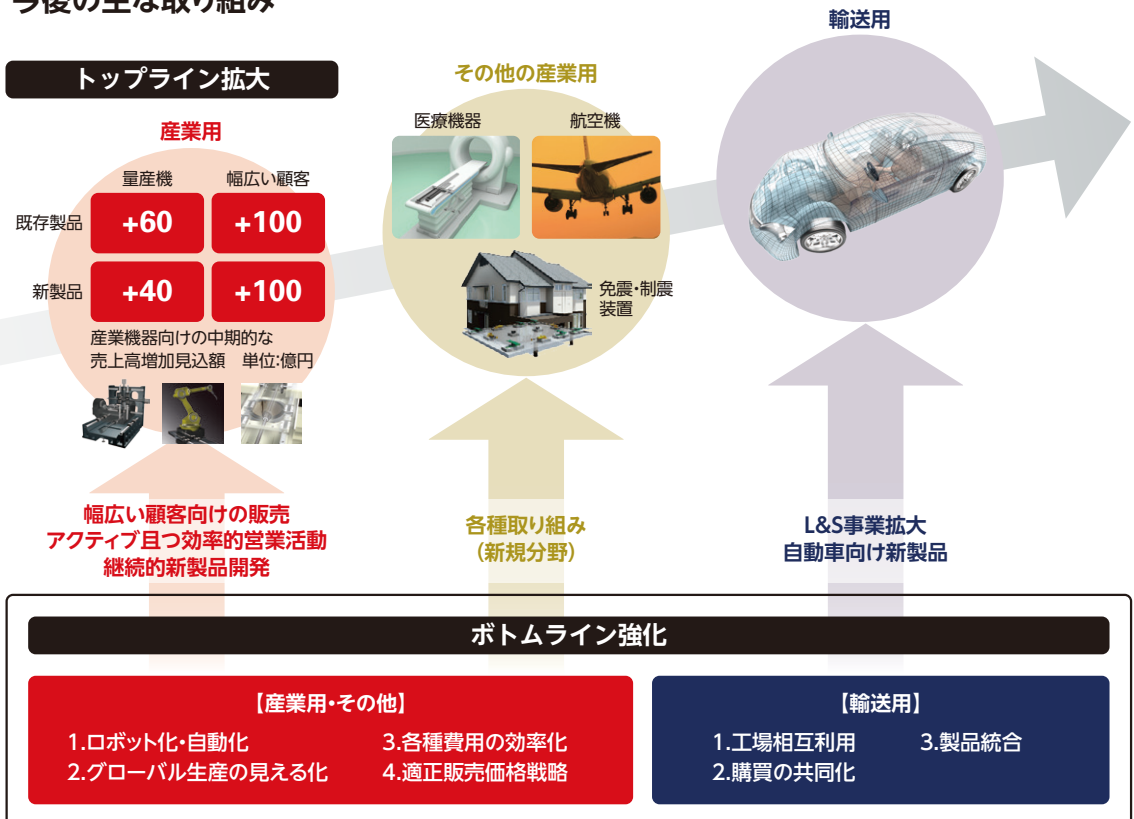
## 成長戦略と中長期的な成長に向けた取り組み

当社グループでは、LMガイドをはじめとする当社製品の市場を拡大すべく「グローバル展開」と「新規分野への展開」「ビジネススタイルの変革」を成長戦略の柱として掲げています。グローバル展開においては、中国をはじめとする新興国ではFA (Factory Automation) の進展などを背景としてマーケットは成長し、先進国でもユーザーの裾野が広がる中、これらの需要を取り込むべくグローバルで販売・生産体制の拡充に努めています。新規分野への展開においては、自動車や免震・制震装置、医療機器、航空機、ロボット、再生可能エネルギーなど消費財に近い分野で当社製品の採用が広がる中、従来品のみならず新規開発品の売上高の拡大を図っています。さらに、これらの戦略を推し進めるべく、販売、生産、開発など様々な面でIoT、クラウド、AI、ロボットを徹底的に活用することで、ビジネススタイルを変革さ

せ、ビジネス領域のさらなる拡大を図っています。

そのような中、中長期的な成長に向けて、産業機器事業、その他の産業機器事業、輸送機器事業におけるトップライン拡大に向けた取り組みを進めています。産業機器事業では、「幅広い顧客向けの販売」「アクティブ且つ効率的営業活動」「継続的新製品開発」により中期的に売上高を300億円増加させていきます。その他の産業機器事業では、引き続き消費財に近い新規分野において採用拡大に取り組んでいます。輸送機器事業では、THK・THKリズム・TRAのシナジーを発揮することにより、L&S (リンクージ アンド サスペンション) 事業のさらなる拡大に加え、直動製品のコア技術を活かした新製品の開発と拡販に取り組んでいます。これらに加え、各種ボトムライン強化に向けた取り組みにより、収益性向上を図っています。

### 今後の主な取り組み



## 産業機器事業における取り組み

産業機器事業では、これまで強化してきたマーケティング活動によって、工作機械や半導体製造装置などの装置メーカーが生産する量産機向けのほかに、オーダーメイドの専用機や、機械装置を実際に使用するお客様の内製設備や自動化関連設備、補修品などの需要が多く存在することが分かりました。これらの「幅広い顧客」向けは量産機向けに比べて高い利益率が期待できる市場であり、その獲得に向け各種施策を展開しています。

幅広い顧客への販売拡大に向けては、膨大な数の顧客をカバーすべく各種ITツールを用いた効率的な営業活動を推進しています。まずは展示会などにより当社の認知度を高め、顧客との接点を増やし、これらの顧客をマーケティングツールにより分析し、購買フェーズごとに選別するとともに自動で最適な情報をお届けします。そして、最適なタイミングで実際のお取引を開始します。加えて、これら一連の流れの中で得た顧客のニーズを分析し、新製品開発並びに新たな販売方法の確立に繋げていきます。

具体的な取り組みとしては、2016年8月よりLMガイドアクチュエータ SKR/KRのセミオーダー品の販売を開始しました。お客様からの要望の高い5つのカスタムをセミオーダー化し、最短10日の短納期で対応しています。それと併せて、新たに開設したWeb専用最適品自動選定ツールも使用することで、営業マンを介さずとも注文に至るまでに必要な寿命計算や

形番選定などを簡単に行うことができ、短納期を実現することができます。そのような取り組みの結果、セミオーダー品の受注本数は主に幅広い顧客向けに順調に増加しており、今後も他の製品のセミオーダー品もスピード感を持って投入していきます。さらに、2017年3月には、「Omni THK」を開設しました。本サービスは、お客様が時間や場所を問わず、Webサイト上の簡単な操作で当社製品の選定や注文を行うことができるものです。お客様が当社製品を認知してから注文に至るまでのプロセスが、対面営業のみ、もしくはWebのみだった従来のスタイルとは異なり、Omni THKでは、お客様がどの場面にあっても、自由にシステムを使うことができるため、当社の営業拠点がない地域のお客様も含めていつでも簡単に当社製品を購入することができます。このサイトは、シンガポール、マレーシア、タイより開始していますが、他の国へも順次展開していきます。

これらトップライン拡大に向けた取り組みに加え、ボトムラインの強化も図っており、2017年3月に、日本、米州、欧州、中国における各工場の加工機の稼働状況が一目で分かるイーグルシステムの導入が完了しました。これによりグローバル生産の平準化を図っています。将来的には加工機だけではなく、製品や現場の人員などをネットワークに繋げることでよりあらゆる工程を見える化し、飛躍的な生産性向上を図っていきます。

## 産業機器事業(その他)における取り組み

その他の産業機器事業では、引き続き消費財に近い新規分野での採用を拡大すべく販売及び開発活動を積極化させています。免震・制震装置分野では、BCP(事業継続計画)への意識の高まりから建物免震や機器免震における当社製品の採用が拡大

しています。医療機器関連では、当社製品ならではの高い精度を評価いただいております。手術支援ロボットや歩行アシストロボットをはじめ、様々な機器での採用が拡大しています。航空機分野では、テーブル引き出し機構、リクライニングシートなどにおいて、

安全性と軽量化が求められる中、コンパクトで剛性の高い当社製品の採用が着実に拡大しています。ロボット分野では、ロボットテクノロジーシステムの要素部品群「SEED Solutions」のラインナップ拡充を図る中、様々な形状や大きさの対象物をつかむことができるロボットハンド TRXの基本セットを教

育機関向けに特別価格で提供を開始しました。再生可能エネルギー分野においては、風力発電機では、新たに垂直軸風車用低トルクシャフトユニットの販売を開始し、水流発電機では、日本のいくつかの地域の河川でテストを開始するなど、さらなる拡大を図っています。

## 輸送機器事業における取り組み

輸送機器事業では、グローバルで販売・生産・開発体制を構築し、独立系のグローバルサプライヤーとして幅広い自動車メーカーへのL&S事業の拡大と自動車向け直動製品の採用拡大に取り組んでいます。L&S事業では、THKリズムとTRAの相互の販売・生産体制を活かした受注活動によりさらなる拡大を図っています。その一環として、THK America、THK Europeの自動車部品事業

をそれぞれTHKリズム、TRAに統合しました。加えて、中国をはじめとする新興国市場でもTHKリズムの事業基盤を活かした事業拡大を図っています。自動車向け直動製品では、2016年に構築した量産ラインを2017年に検証し、2018年より納入を開始する予定です。今後も自動車の電動化、自動運転技術の進展を追い風にさらなる採用拡大を図っていきます。

## 今後の成長に向けて

これまで述べましたように、当社には今後も成長の機会が数多く存在し、「グローバル展開」「新規分野への展開」及び「ビジネススタイルの変革」によりビジネス領域を拡大させることができるものと考えています。今後もこれらの成長戦略を加速させるとともに、収益性を高めるべく、固定費の効率化や変動費比率の改善などの取り組みを強化し、いかなる外部環境においても成長し続けるような強固な経営基盤を構築していきます。その結果として、企業価値を増大させ、株主様をはじめとしたステークホルダーの皆様のご期待にお応えしていきます。皆様方におかれましては、今後とも引き続きご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

2017年7月



THK株式会社  
代表取締役社長CEO

高橋 孝典